

伝統のせんだん祭り



オープニングは、各学年の学習発表(ふれ合い活動)での紹介が…。

昔遊び、おもちゃランド、千代田の自慢、皆と仲良くなれるよう…。



さわやか劇場では、暗唱劇、ピアノ、なわとび、空手、音楽演奏…。子ども達の挑戦する姿に、感動しました。これからも様々な事に Challenge を！



5年生は、お家・地域の方の協力を得ながら初冬の風物詩、餅つきを楽しみました。きな粉は、JA 青年部の指導を受けて収穫した大豆を使用しました。



【寄付を頂きました】

千代田町、東部小校区にある東洋ビューティー(株)から地域貢献の一環で、理化学に関することに役立てると、顕微鏡の寄付を頂きました。

早速ですが、理科の実験・観察に活用させていただきます。ありがとうございます。ございました。



真心が発する「言葉の魅力」

～ある方の手記より～

「めんこ めんこ」(*^o^*)



子どもの頃、よく「お前は悪い子だ」と言われた。落ち着きがなく、生意気な態度ばかり取る。両親も先生も近所の人でも手を焼いていたらしい。私は、生意気、困った子、悪い子、そう言われれば言われるほど、周囲

の期待通り問題児になっていった。(中略) ある日、みんなと遊ぼうと校庭に向かう途中、ある先生に出会った。先生は、いつものように「こんにちは」と挨拶した後、私の膝に目をとめ「そのケガどうしたの」と。私は、木から落ちて擦りむいたけど、少しも痛くないですと答えた。先生はにっこりとして、「君は強いね。元気一杯で、とても良い子だ」と仰った。“悪い子”の私はびっくりして、「全然良い子じゃありません、悪い子です」と急いで訂正したら、今度は先生が目を丸くして驚かれた。先生は、私の目を見つめたまま、私の両肩にそっと手を置きこう仰った。「君はちっとも悪い子なんかじゃないよ。素直で優しい心を持った素晴らしい子だ。君はいつも私に元気よく挨拶してくれるね・・・」

私が恥ずかしそうにもじもじしていると、先生は破顔して「めんこ、めんこ」と言って頭を撫でてくれた。私は、先生の笑顔を見上げながら、「今日からは良い子になるんだ」と心に決めた。そして小学校を卒業する頃には、周囲から優等生と評されるようになった。あの日の先生の言葉が、私を変えたのだった。

殺伐とした言葉が社会に氾濫する中、本校では、これまで以上に言葉の大切さを指導していこうと話をしています。人が、人としての存在意義を持てるのは、言葉の重みを理解し日常生活での実践百々となった時なのかも知れません。私達大人から「美しい日本語」の話し手となりたいものですね。



